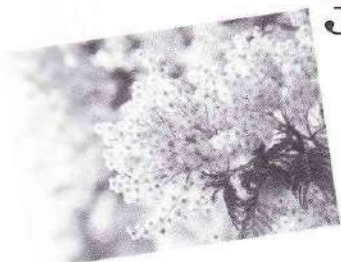


3月8日は国際女性デー「女性の祭り」 ミモザの花束を男性から女性へ

音楽ジャーナリスト

中 東生



ミモザの花

ミモザの黄色い花が咲く季節になりました。3月8日は国際女性デー（International Women's Day）です。

イタリアでは「女性の祭り」と呼ばれるこの日に、男性が日ごろの感謝の気持ちを込めて、妻や恋人などにミモザの花を贈る習慣があります。じつは、その可憐な花からは想像がつかないほど、力強いメッセージが込められているのです。

イタリアンマダムが「この日は昔、タバコ工場の女工が蜂起した日なのよ」と誇らしげに教えてくれたことがあります。実際は、ニューヨークで1904年に起こった、婦人参政権を求めるデモが起源です。イタリアで初めて「女性の権利」を祝ったのは1922年のことでした。

**働く既婚女性は50%
主婦たちの節電意識の高さ**

欧州諸国のなかでイタリアは、比較的早くからこの祭りを祝っていたにもかかわらず、働く既

婚女性は現在でも50%以下です。EUで最下位のギリシャに次ぐ低さなのです。

それでも、炊事や掃除などの家事に重きを置くイタリアで、半数弱の女性が働ける時代になったのは、家電の発達のお陰ではないでしょうか。

しかし、電気代が高いため、主婦たちは驚くほどの節電意識を持っていきます。高さには驚かされず、電気給湯器で温めたお湯を無駄にしないようなシャワーの浴び方、洗濯の節約（洗濯機は温水使用のため電気使用量も多い）、間接照明の活用と無駄な電気の徹底消灯など、慣れるのに苦労しました。

**87年に脱原発に舵を切る
電力の自給率は35%弱**

電気代が高いのは、チェルノブイリ原発事故の翌年、87年に国民投票で脱原発に舵を切ったことも一因でしょう。

現在「脱原子力」を掲げて苦戦しているドイツやスイスを横目

に「G8のなかで唯一原子力発電所をもたない国」を誇っているイタリアですが、廃炉になった核廃棄物の処理が停滞しているという内情があります。

2011年3月11日に発生した福島原発事故の3カ月後、イタリアは完全にすべての原発を停止しました。そのため、フランスなどから電力を輸入していますが、その電源は原子力発電所というジレンマもあります。現在、イタリアの電力自給率は35%弱となっており、それが電気料金に跳ね返ってきているでしょう。

一方、日本の電力自給率はわずか8.3%で、イタリアより大幅に下回っています。福島の原発事故を経験した日本こそ、より切実に資源のことを考え、効果的な節電対策を考える必要があるのではないかと思います。

日本にも、ミモザの花束を女性に贈る習慣とともに、強い節電意識が根付くといいなと、イタリアから祈念しています。

中 東生(なかしのぶ): 東京芸大卒業後イタリア国立ミラノ・ヴェルディ音楽院に留学。著名な音楽家のインタビューをはじめ、音楽専門誌やコンサートプログラム、CDのブックレット執筆を主に欧州の音楽、文化、生活情報も発信。日欧文化交流企画も手掛けている。

Profile